

児童生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題(概要)

藤井寺市教育委員会では、昨年度実施された平成29年度全国学力・学習状況調査の結果も踏まえ、今回の調査結果を分析いたしました。

学習については、依然どの教科においても全国や大阪府に比べて正答率の数値は低いものの、中学校においては全体的に改善の傾向が見られました。また、今年度は3年ぶりに理科の調査が実施されましたが、全体的に前回の調査よりも肯定的な回答の割合が高く、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」と回答した児童・生徒の割合は府よりも高い結果でした。さらに、小中学校において「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童・生徒の割合については、ここ数年で増加傾向にあります。

各校において、対話的な活動を重視して取り組んできた授業改善の成果が見られます。しかし、「自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」という回答については低迷しており、主体的な学習のあり方と併せて、さらなる授業改善の取り組みを工夫し、進めていく必要があります。

生活については、「自分には良いところがある」「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童・生徒の割合が高く、また増加傾向にあります。さらに「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答する児童・生徒の割合も高く、児童・生徒が一定安心して、意欲的に学校生活を過ごしています。いじめに関する質問についても「どんな理由があってもいけない」と回答した児童・生徒の割合は、特に中学校で少しずつ増加しており、各校の教育活動の取り組みの成果と考えられます。しかし、家庭学習については若干小学校において定着しつつあるものの、依然主体的に取り組んでいる割合は低いです。

今後も引き続き、学校・家庭・地域における様々な取り組みを通じて、自分が認められたり、達成感を味わえたりするような経験が積み重ねられるよう工夫が必要です。

重点課題として、昨年度より新学習指導要領の基本的な方向性である「主体的・対話的で深い学び」に備えた取り組みを進めております。その基盤となる、児童・生徒が将来の夢や目標を持つことや、いきいきと日々の生活を送ることができるよう、今後も自己肯定感と豊かな人間性を育む教育の推進を図ってまいります。

本調査によって見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と学習及び生活上の課題の概要については、以下のとおりです。

(1) 学習について

児童・生徒の好ましい傾向

- 国語において、漢字の読みなど基礎的・基本的な力が身につけていること
- 算数・数学において、「公式や決まりのわけを理解するようにする」という論理的に考える学習姿勢が徐々に身につけてきていること
- 中学校理科において、記述式の問題に対して意欲的に取り組んでいること
- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること

課題

- 意図を持ち、伝えたい事実や事柄について自分の考えを分かりやすく書くこと
- 算数・数学において、基礎的な式や用語の意味について理解すること
- 中学校理科において、科学的な言葉や概念の意味について理解すること
- 問題の解き方や自分の考え方がわかるように、ノートに書いたりまとめたりすること
- 自分の考えがうまく伝わるように、工夫して発表すること

(2) 生活について

児童・生徒の好ましい傾向

- 自分には良いところがあると感じていること
- 人の役に立つ人間になりたいと感じていること
- 小学校において、家庭で自ら計画を立てて学習する習慣が定着しつつあること
- 家の人と学校での出来事などについてよく話をしていること

課題

- 生活リズムを整え、十分な睡眠をとること
- 学校の授業の予習・復習、自主学習に取り組むこと
- 読書に親しむ習慣を定着させること

課題解決の基盤として、学校で「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）を育み、子どもたちが意欲的に学習し、学びの達成感を感じ、自己肯定感が育まれる授業が何よりも大切です。そのため、学校は多様な学習形態や指導法を組織的に研究し、日々の授業で実践する必要があります。

また、「本やインターネット等で、じっくり調べる活動」「話し合いで、考えを広げ深める活動」「自分の考えをまとめる活動」「自分の考えや説明したいことをわかりやすく表現する活動」等の言語活動の実践をさらに進めていくとともに、子どもたちが受け身で授業にのぞむのではなく、主体的・対話的で深い学びとなる実践を積み重ね、家庭学習にもつながるような授業改善が、今まさに求められています。

教育委員会では、「学力向上推進支援事業」を通して、各学校の特色に応じた授業研究、児童・生徒が生き生きと活躍する授業改善を進めるとともに、授業作りの研修会の開催、個に応じた習熟度別指導の工夫等が推進されるよう支援してまいります。さらに、豊かな学びの環境作りのため、学校図書館やICTを活用した学習の充実に、より一層取り組んでまいります。